

## 投資の基礎講座 「リスクについて考えるチャンス？」

CFP®認定者  
日本FP協会群馬支部副支部長 大谷 明

サブプライムローン、原油高、株価の乱高下、円高など金融市場は大きく変動しています。投資信託や株式、外貨預金などのリスク商品への投資に躊躇したり、逃げてしまう状況になっています。

「やっぱり投資は怖い！」と思うのか「下がった時(大きく変化している時)こそチャンス！」と思うのか、人それぞれだと思います。このような変動があること、それがリスクであり、それを知ることはとても大切です。右肩上がり続けて損をすることが無ければ「リスク」を実感することはできません。投資の原則は「長期投資」「分散投資」「余裕資金」です。「長期投資」と言っても決して「長く持っていればいい」と言うわけではなく、「時間を味方にする」と言うことです。

値下がりしたとき、変動が大きくなったとき、「持ち続けて値上がりを待つ」のか「損失を確定してしまう」のかその判断をするために「時間をかけて検討する」ことだと思います。原因を考えてみる(人に聞いてみる)、これからの見通しを考える(聞いてみる)そして、「自分で判断する」ための時間をかけることです。

最近の金融市場のように大きく変動しているときこそ、いろいろな情報が錯綜して混乱するかもしれませんが、いろいろな情報があることで、自分で考えることができると思います。こんなチャンスは逃すことはありません。リスクを考えるチャンスと捉えて、これからの資産運用を考えてみましょう。

## 先週の金融市場データ

## スーパー定期(ニュー定期)金利表

平成20年2月4日現在

週間高低表(終値ベース)	週初	高値	安値	週末終値
日経平均株価	13,087.91円	13,592.47円	13,087.91円	13,497.16円
TOPIX	1,293.03	1,346.31	1,293.03	1,336.86
ニューヨークダウ平均	12,383.89ドル	12,743.19ドル	12,383.89ドル	12,743.19ドル
NASDAQ	2,349.91	2,413.36	2,349.00	2,413.36
10年国債利回り	1.405%	1.475%	1.405%	1.425%
5年国債利回り	0.840%	0.900%	0.840%	0.880%
無担保コールO/N	0.502%	0.561%	0.501%	0.561%
米国FFレート	3.5000%	3.5000%	3.2500%	3.5000%
米国10年国債利回り	3.58%	3.68%	3.58%	3.59%
ドイツ10年国債利回り	3.95%	4.01%	3.91%	3.91%
ドル/円相場	106.46円	106.74円	106.43円	106.43円
ユーロ/円相場	156.25円	158.41円	156.25円	158.38円
1ユーロ=ドル	1.4676ドル	1.4878ドル	1.4676ドル	1.4878ドル
豪ドル/円相場	94.09円	96.99円	94.09円	95.54円
NY原油先物(WTI)	90.99ドル	92.33ドル	88.96ドル	88.96ドル
NY金先物	927.10ドル	928.00ドル	913.50ドル	913.50ドル

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年
群馬銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
東和銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
高崎信用金庫	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
郵便局	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%

## モノライン(monoline insurer)

米国のモノラインの格下げが問題になっています。「モノライン」とは、英語の直訳で単一の「mono」事業「line」を意味しますが、米国では金融保証保険業務を専門に行う保険会社を一般にモノライン保険会社(monoline insurer)と言います。モノライン保険とは、債務者による債務不履行が発生した場合でも、モノライン保険会社が約定スケジュールどおりの元利支払を行うことを保証するという保険契約であり、銀行による信用状と同様の効果を持つ第三者による信用保管措置の一形態です。

モノライン保険会社は、地方債や資産担保証券などの金融債務のみを保証対象としており、複数の保険業務を手掛ける一般の生損保会社(マルチライン保険会社、multiline insurer)とは区別されています。

モノライン保険会社はAAA格を維持していたことでそこが保証する地方債や資産担保証券が安心して取引されてきました。しかし、サブプライムローンの焦げ付きで支払が急増し、モノライン保険会社の格付けが引き下げられることで、その保証を受けている証券価格が暴落ないしは取引が成立しなくなっています。

## 今週の株式相場見通し

先週の株式相場は前週末の米国株式相場が反落したことや円高が進んだことを嫌気して週初大きく値下がりして始まりました。その後米FOMCでの利下げ期待と実施により反発し日経平均株価が一時13600円を超える場面もありました。しかし、10-12月期のGDPが市場の予想を下回ったことなど景気の減速感も根強く上値の重い展開となりました。

今週の株式相場は、売り圧力が強まり下値を模索する展開となりそうです。先週の米株が利下げやモノラインへの資金投入、M&Aなどに支えられたことである程度株価が維持されたと思われます。それが剥げ落ちることで景気減速への警戒感が強まることや「質への逃避」から株式市場からの資金流出が続く、相場は軟調な展開が予想されます。ただ、好業績銘柄を個別に物色する動きが出てきていることから、下値は限られ、仮に日経平均株価が13000円を割り込んだとしても一時的なものにとどまりそうです。

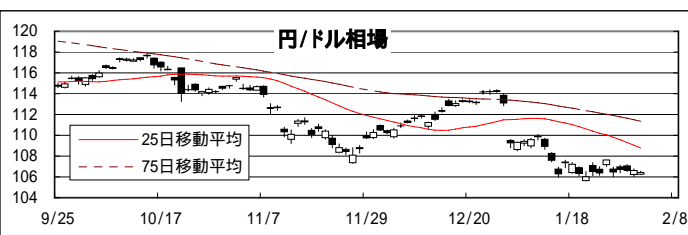
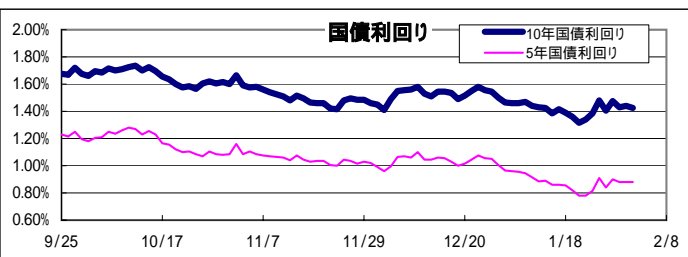
## 今週の債券・為替相場見通し

先週の債券相場は、週初株式相場の下落や米金利引下げ観測から10年国債利回りは1.400%まで低下しました。その後株式相場に連動する形で1.475%まで上昇する場面もありましたが、1.425%で引けました。

今週の債券相場は、引き続き株式相場との連動を高まっており、株式相場がやや軟調になる可能性があることから債券相場は確りとした展開が予想されます。10年国債利回りで一時的に1.40%を割り込む場面がありそうです。しかし、積極的に債券を買う動きも乏しいことやインフレ懸念もあり、10年国債利回りでは1.380~1.450%程度の推移となりそうです。

先週の為替相場は、米国の利下げ期待と実施でややドル安となったものの1ドル=106円前半までの円高・ドル安にとどまり比較的落ち着いた値動きとなりました。

今週の為替相場は、先週末の米雇用統計などドル安要因が強いものの、週末のG7を控えて慎重な取引となり、値動きは乏しいものと思われます。1ドル=105円80銭~107円程度での推移となりそうです。



本資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。ここに記載されているデータ、は信頼できる各種情報源から入手したものであり、その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された見解や予測等は資料作成時点における個人的意見であり、ライフプラン21が保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。

CFP®, CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®およびサティファイドファイナンシャルプランナー®は、米国においてはFinancial Planning Standards Board Ltd. (FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。